

1、本園の教育目標

<p>キリスト教精神を土台とした人間教育を目的としており、乳幼児期における健全な心身、宗教的情操、隣人愛等の育成に重点をおいている</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、生涯の土台作りのために、いろいろな実際体験を保育に取り入れる。 2、一人ひとり的人格を大切にし、心の行き届いた保育をする。 3、豊かな心、信頼の心、感謝の心、意欲的な心の土台を育てる。 4、神様からいただいた身体を大切にすることを育てる。 5、友だちと共に生活することに喜びを持つ心を育てる。 6、自分からあそびに取り組んだり、自主的に活動できるように援助する。 7、家庭と園の協力を大切にし、保護者と保育教諭が協力しあう。
--

2、本年度重点的に取り組む目標・計画

<ol style="list-style-type: none"> ① キリスト教保育の指針に基づき、神様からいただいた自分の身体を自分自身が愛し、大切にすることができるように、そして、自分と同じように、他の友だちの身体も大切にできるようになるためにはどのような大人の関わりが必要なのかを新しく取り入れる研修の中で学ぶ。 ② 発達に添った生（性）に関する教育プログラムの実施をする。 保育士も同様に幼児期における性的関心と 行動の理解を深めるための学びをする。 ③ 子どもが日常の中で主体的・意欲的にあそぶには、どのような環境や援助が必要か、園内研究保育の中に位置づけて考える。

3、評価によりみえてきた主な課題とその取り組み方法

評価項目	努力点・改善点	具体的な取り組み方法
環境構成	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが自分で好きなあそびを選び、楽しみ、自由に考え表現できるように、年齢や発達に応じた環境を常に工夫し、提供することの大切さを感じ、年間通して取り組んだ。 ・学年での話し合いも充実し共通意識をもって準備し、提供することができ始めた。しかし、3学期の時間的に余裕がなくなった時に、準備が行き届かない時があった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・先の見通しを持って、遊びの環境を整えるため、話し合う時間を計画的に取り入れ、確実に実施することはできたので、さらにあそびの環境を充実させるため、情報を共有し、アイデアを出し合い園全体で取り組んでいく。 ・それぞれが意識して園全体の環境を整えていくことができるように、役割分担をして責任をもって関わっていく。
資質向上	<ul style="list-style-type: none"> ・研修会で学んだことが、保育に活かされていないこともある。また、学んだことを職員への発信をする場がなく、共有できていない。 ・聖書の学びを通して、聖書に触れることができよかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・研修会で得た情報は、復命書にて提出し、職員会等で、報告会を開き、情報を共有していく。 ・2020年度は、個人で研修目的を決め自主的に研修に取り組むので、それぞれの学びが保育に生かされていき、また、園全体で学び合う機会を持てることと期待する。 ・専門性を高めるための研修に積極的に参加し、職員全体で取り組めるようにする。
保育計画・内容	<ul style="list-style-type: none"> ・二人担任制になり仕事を分担でき子どもとしっかり関わることもできた。（幼児クラス） ・子ども一人ひとりの発達段階を考え、見通しをもって関わることもできた。（乳児クラス） ・肯定的な声掛けを心掛けた。子ども同士が認め合う姿が見られるようになり、子ども同士の声掛けが肯定的になった。 ・保育のふりかえりが時間内で終わることができない時があった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・園全体で改善できるように、週案作成などの必要性の高い会議は、確実に実施できるように主幹が計画をし、召集し、学年の話し合いについても、同様に、確実に計画にいられたところ、情報共有、共通理解をすることができ、見通しをもって保育をすることができたので、今後も続けていく。 ・個人で目標を掲げ、日々の保育に意識をもって関わることもできた。2020年度も今年度のふりかえりをもとに、具体的な目標を立て、取り組んでいく。
保護者との関わり	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもを中心に据え、保護者との会話を心がけて、コミュニケーションをとり、信頼関係が築けるように努力した。 ・子どもの良いところを伝え、同じ目線で子どもを見ていくことができた。 ・まだ、うまく声掛けができなかった方もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・意識をもって、保護者対応ができた職員が多かった。 ・今後も保護者の気持ちを受け止め、子どもの成長のために、情報を発信していき、園と保護者が共通認識を持ち、同じ方向を向き、安心して子育てができるような関係性を築いていきたい。

職員間のコミュニケーション	<p>・今年度は、職員会、リーダー会、学年の話し合い等定期的に計画をし、実施したため、学年の職員間の情報共有ができ、話し合った内容がプリント化されたので、共通理解ができた。</p> <p>・わからないことなど直ぐに聞ける環境だったので、互いに支え合うことができた。</p> <p>・乳児のクラスでは、パートの職員との話し合いが持ちにくい時もあり、共通理解できていない時もあった。</p>	<p>・職員のコミュニケーションを図るため、共通認識の必要性に重きを置き、改善していったところ、全体的に、話し合いがもたれ、必要な連絡事項や保育方針など、皆が共有することができ、良い関係性ができてきたので、引き続き実施していく。</p> <p>・幼児クラス、乳児クラスの生活リズムの違いがあり、職員の動きにも違いがある。そこで、職員の直接保育時間と間接保育時間を有効に活用するためのマネジメントを工夫する。</p>
---------------	---	---

4、総合的な評価結果

2019年度は、乳幼児期における生(性)に関する教育プログラムを取り入れ重点的に取り組んできた。専門的に特化した講師による研修を受け、乳幼児の理解を深めてきた。新しい試みで、戸惑いもあったが、研修を受け、学ぶことで、新しい発見や、気づきを与えられ保育の在り方を見直す良い機会を与えられた。そして、子ども理解がいかに大切なことか、改めて確認し合うことができた。また、毎年、課題となる、教職員間の情報共有の仕方、コミュニケーションの取り方など、園全体で話し合う時を確実に計画し、実施することができた。その結果まだ、途上の部分もあるが、職員一人ひとりが自覚をもって、自主的に考え、計画し、行動に移していくことができ職員の向上心が高まったし、職員同士がお互いを尊重し、個性を認め合う温かい雰囲気が出てきた。

さらに、行事の見直しや、業務の削減に取り組んだ結果、今までより、余裕をもって保育の準備ができ、子どもとしっかり向き合うことができるようになった。しかし、時期によっては、業務が集中する時があり、今後の課題である。

今年度は、職員みんなで、園全体のことを考え、意見を交わしながら一緒に前に進むことができた一年だった。

5、今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み状況
子どもの健やかな育ちを保障するために、乳幼児理解を深め、学んでいくことが必要と考える。	それぞれの保育士がテーマを設定し、1年間を通して語り合い、子ども理解を広げ保育計画等に組み入れていく。
全ての園児、保護者、職員が、一人の大切な人として認められ、認め合いながら、この園での生活において肯定感をもって、過ごしていくためには、どのような関りが必要かを考える。	昨年に引き続き、子ども、保護者、職員の良きコミュニケーションを築くため、ことば、表情、共通認識するための時間の作り方等を意識していく。 また、エピソード記述を取り入れ、援助が必要な子どもの関りも肯定的な関わりができるように、学んでいく。
昨年度に引き続き行事の見直しや業務の削減に向けて話し合いを続け、職員が直接の保育に集中できるような環境作りができるよう努力する。	今年度は、新型コロナウイルス感染症対策の為、行事の中止や延期の対応をとることで、行事は削減されており、また、新しい方法を取り入れ、工夫しながら実施していく。その経験は様々な角度から行事を見直していく良い機会であると捉え、必要な事柄を見極めていく。

5、学校関係者の評価

※年間の自己評価の方法の新しい取り組みで、職員の意欲を感じる。この積み重ねが大切だと感じる。

※自己確立の土台を作る大変大切な年齢の幼児教育を園の方針、教育目標を理事長、園長をはじめ教職員がよく自己研鑽され、研究計画を立てて、共通認識をもって行動されておられることを高く評価し、敬意を表する。大変多忙な保育環境の中であろうが、子ども達の為、先生方の働きやすい環境作りの為、精進されるようお願いする。

※今回のコロナ問題が大きく社会を変えようとしている。今までのあたりまえが通用しない！今まで良き会社が今苦しみ、そこに勤める社員さんもまた、苦しんでいる人はたくさんいらっしゃると思う。その中で、それらの子どもさんを預かる園はとても大切な役割だと思う。これから園の先生たちが良き夢をもてる園になることを期待している。お互いの情報交換がもっとスムーズになればどんどん良くなると思う。

※園長・職員がそれぞれの一年の働きを振り返り各自反省をし、その努力、改善点をあげ、対策まで具体的に示してあって、感心した。幼子たちが良き保育者に寄り添ってもらい、のびのびと育てていくさまがうかがえて嬉しく思った。職員の福利厚生充実も大事である。勤務先の天山ルーテル学園において自分も子ども同様大切にされていると感じられるよう、有給休暇のさらなる取得拡大に努力していただけるようお願いしている。

※自己点検、評価の中で、いくつかの課題があるが、その課題にどれも大切な問題だとは思いますが、優先順位をしっかりとつけて一つずつ確実に改善できるように園あげて取り組んでもらいたいと思う。

※職員会等話し合いの場も多くもたれ、職員間の共通の理解や、意識ができ、保育にいかされていると思われる。

6、財務状況

公認会計士監査により、適正に運営されていると認められている。

